



臨床検査ニュース

平成 13 年 11 月 30 日

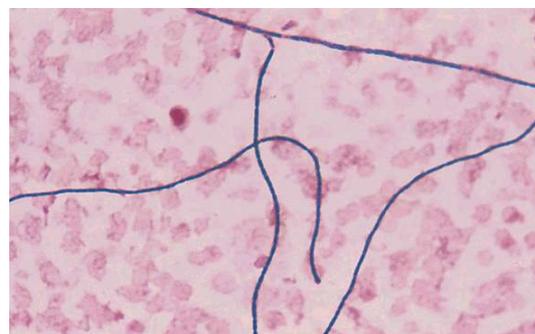
炭疽症を疑ったときにおこなう細菌検査

炭疽症には大きく分けて 3 つの病型があります。皮膚に潰瘍をつくる皮膚炭疽、縦隔炎や血性胸水が特徴的な肺炭疽、そして腸に多発性の潰瘍を形成する腸炭疽が知られています。いずれも潜伏期は感染して数日以内です。ただし、肺炭疽では吸い込まれた芽胞がそのまま発芽せずにとどまり、40 日以上してから発病した例も過去にあります。肺炭疽の初期症状は、発熱、咳、頭痛、筋肉痛、吐気、腹痛など感冒症状そのものです。治療が少しでも遅れると敗血症、髄膜炎に進行し、米国のテロ事件でも既に 5 名の命が奪われています。早期の診断・治療が不可欠です。

皮膚炭疽を疑ったら、潰瘍周囲の水疱にスワブをあてて内容液を染みこませるか、痂皮の周囲を転がして菌をぬぐって、電話連絡のうえ直ちに検査部に提出してください。またいずれの炭疽症の場合も、抗菌薬使用前の血液培養は必ずおこなうべき検査です。検出率が高いばかりでなく、薬剤感受性の結果が追加抗菌薬の選択や変更が必要です。初期治療に関しては、バイオテロを疑うような状況があれば、CDC や当院感染症対策委員会が薦めている抗菌薬を直ちに開始します。ちなみに鼻腔のスワブは、陰性だからと言って除外診断や感染の危険性を予知することはできません。一人の患者さんの診断や治療判定のための検査には適していません。



安全キャビネット内で培地に炭疽菌を塗布
(ニューヨーク州保険局検査室)



郵便局勤務の 56 歳男性の血液培養
(グラム陽性の連鎖状の桿菌:炭疽菌)

不審な粉末などの検査は、換気設備が整った二重ドアの室内の安全キャビネット内でおこなわなければなりません。また PCR を用いて迅速に結果を出し、汚染の拡大を防ぐ必要があります。粉末を持って患者さんが直接来院したときには、直ちに警察・保健所に相談しましょう。不審物の検査は各地域の衛生研究所や国立感染症研究所でおこなうことになります。

- 参考・引用文献: 1) MMWR 50(44),11/9,2001
2) JAMA 286:2549,2001
3) 厚生労働省 科発 509 号:11/16,2001

臨床検査医学教室 検査専門医 腰原 公人

内線 3559 PB-323
(Clinical Test News No.8/2001. 11)